

あわら湯けむり創生塾（福井県あわら市）

観光客と地元住民で賑わう 温泉街を目指して

塾長

まえだ けんじ
前田 健二



1. あわら市の概要

あわら市は、福井県の最北端に位置し、平成16年に芦原町と金津町が合併して誕生しました。人口約2万9千人の小さな市ですが、美しい日本海、静かな湖や川、緑豊かな山々、優れた泉質の温泉、太陽をいっぱい浴びた農作物など、自然の恵みにあふれたところです。



北湯湖と10基の風車「あわら夢ぐるま」

市の基幹産業は、農業と工業、そしてあわら温泉を中心とする観光です。明治16年に灌漑用の井戸を掘って偶然発見されたあわら温泉は、開湯から130周年を迎えました。

最近では、「温泉情緒あるれる華やぎのまちづくり」と題し、温泉街を楽しくまち歩きしてもらうための取り組みを展開しています。中でも、平成26年4月に温泉街の中心部に整備した北陸一上質な足湯「芦湯（あしゆ）」には、連日のようにたくさんの人が訪れています。

「豊かな自然に囲まれ、おいしいものが採れ、福井県随一の温泉地『あわら温泉』で癒される」あわら市は、幸福度日本一の福井県にあって、福井の中の一歩幸福なまちを目指しています。



一度に34人まで入浴可能な足湯「芦湯」

2. 活動開始の背景・経緯

今では年間93万人の宿泊観光客を迎えるあわら温泉ですが、136万人を数えた平成3年と比べると約7割にすぎません。



あわら温泉宿泊者数等の推移（千人）

「このままではいけない！なんとか地域を盛り上げたい！」という思いから、平成16年の市町村合併に伴い、両町の30代のメンバーを中心に、10年後のあわら市を見据えたまちづくりを目標に掲げ、「RATY」を結成しました。全国の事例を学び、これが後に「あわら湯けむり創生塾」の母体となり、平成18年に塾設立へと発展しました。当時を振り返ると、「活動に自己資金を使うことも厭わない、意欲ある若者だけが集まったこと」、「若者だからこそ、市町村合併のしがらみにとらわれることなく、純粋に『あわら市の将来のため』という気持ちで活動をやってきたこと」が、今日の成果に結びつけることができたのかもしれない。

3. 地域を巻き込む組織づくり

活動に当たって、当塾が活用したのが地域に根付いている本物の素材である「温泉」と「食」でした。これらを最大限に生かし、子ども達に残せるまちづくりをしようと考えました。それには地域の協力が不可欠であり、人間関係にも力を注ぎました。地域や組織において、いわゆる「顔の利く人」に活動の趣旨を理解してもらい賛同を得て、組織に取り

込みました。「若者が実働部隊として動き、そして上の者が地域・組織に話を付ける」、このスタイルで、設立以来活動を続けています。

4. 「湯めぐり手形」で街に活気

当塾がまず取りかかったのが、「湯めぐり手形」（以下「手形」という。）の企画・販売事業でした。この手形は1枚1,500円で、裏面に3つのシールが貼られています。旅館組合加盟旅館と市の日帰り入浴施設に3回入浴できるという共通入浴券で、1人で3回利用することも、複数人で利用することもできます。



地元間伐材を利用した湯めぐり手形

この事業は、74もの泉源があるあわら温泉の特性を活かして、「観光客にいろいろな温泉に入ってもらおう」という発想から始まりましたが、観光客のみならず地元住民の利用も多く、敷居が高い温泉街を身近に感じてもらうと自負しています。

さらに、手形のシールは入浴だけでなく喫茶にも利用できる地域通貨としての役割も果たしています。手形のシールを飲み物と交換できるというこのシステムは、当塾が始めた先進的な取組です。

当初は「宿泊のお客様に対して迷惑」と旅館側の反発もありましたが、入浴時間や人数を制限するなどの対策を講じることで理解が得られ、独自路線に走りがちであった旅館のネットワーク化にもつながり、今では旅館組合と一体となって活動に取り組んでいます。

また、この手形により、旅館にこ

もりがちな宿泊客に温泉街を回遊してもらおう仕組みが構築され、浴衣姿と下駄の音が街全体に活気をもたらしています。

5. 温泉街のランドマーク「屋台村」

次に取り組んだのが、あわら温泉屋台村「湯けむり横丁」（以下「屋台村」という。）です。この事業は、地域のランドマーク形成と、まち歩きのための目的地づくりという意図で始めました。駅前の遊休地を商業目的として試験的に開設したもので、コンテナをベースとして平成19年にオープンしました。現在は、おでん屋、串揚げ屋、フレンチなど10店舗が出店し、地元客と観光客の交流が生まれる場として賑わっています。どの店舗も7～8席で、店主との語らいが楽しめる仕掛けを施しています。また、「温泉」と「地元農産物」を連携させることで、地産地消につながる取り組みも展開しています。



女性客にも人気の屋台村

屋台村への出店は、一般公募により募っています。チャレンジショップとしての性質を持たせ、創業支援や、屋台村卒業後の独立の後押しなども行っています。

平成27年には、全国にある屋台村を本市に招いて、屋台村全国大会を開催し、地元の美味しい食を全国に広くPRしました。

6. 地域資源を活用した商品開発

あわら温泉の源泉だけを使った完全無添加の化粧水の開発や、地元特産品を使ったご当地スイーツなど、地域資源を活用した幅広い商品開発にも努めています。これらあわら温泉ならではの商品をお土産品として販売することで、観光振興や市のイ

メージアップにも貢献しています。



あわらオリジナルの温泉化粧水



とみつ金時を使ったご当地プリン

7. 観光情報処「おしえる座あ」

「おしえるざあ」は、福井弁で「お教えてください」という意味で、市の委託を受けて、市内のJRと私鉄の主要2駅で観光案内業務を行っています。スタッフは主婦や若い女性が中心で、様々なイベントにも参加してもらい、今後のまちづくりを担う人材の育成につなげています。



民間主導の観光案内&情報発信基地

さらに、観光案内業務だけでなく、地元商店のアンテナショップとして委託販売も実施し、流通を促す役割も果たしています。

また、日本初の牽引式2人乗り自転車のレンタサイクルを運営し、まちなか周遊や地域散策を楽しんでもらえる工夫も取り入れています。

8. ゆるキャラ「湯巡権三」の開発

湯巡権三は、設立時に、当塾の公式キャラクターとして開発しました。誕生当時は「湯めぐり手形」や「観光PR」を担って活動していましたが、その後の「レンタサイクル」「屋

台村」「商品開発」などの事業拡大に伴い、それぞれの活動をPRするキャラクター「湯巡5兄弟」として拡大し、更なるPR効果を高める工夫を凝らしました。



温泉ご当地キャラクター全国3位

その活動の成果が行政や市民からも認められ、平成23年に、あわら市全体をPRする「あわらおもてなしキャラクター」に就任しました。当塾の活動PRから、県内外の出向宣伝活動まで、あわら市を幅広くPRしています。

また、ゆるキャラグランプリなどにも積極的にエントリーし、絶えず露出を高めるよう努めています。最近では、携帯アプリ「LINE」のスタンプ開発など、時代に合わせたPR手法にも取り組んでいます。

9. 課題と展望

我々あわら湯けむり創生塾は、「旅館こもりの旅行」と言われたあわら温泉が、本来の観光温泉地としての輝きを取り戻すため、この事業を機会に、埋もれがちな「地域の宝」を集結し、その「宝」を最大限に利活用することで、「住んでよし・訪れてよし」の観光温泉地として、あわら温泉の「未来」を示していきたいと考えています。

また、「地域の宝」を大きな柱とした、全国に「自信」と「誇り」の持てる温泉地を確立し、平成35年春の北陸新幹線芦原温泉駅開業を見据え、あわら温泉の観光産業が福井県産業の核となるように育て、ますます発展させていきます。

そして、若手観光カリスマの後進育成にも尽力し、今後のあわら市を支える活動を展開していきます。